

用地取得、文化財など、激特事業に関わるあらゆる分野で最大限の配慮を実施 併せて鶴田ダム再開発プロジェクトもスタート!



推進分水路掘削工事

鶴田ダム再開発事業も並行して推進

激特事業と併せて川内川流域の洪水被害軽減のため、鶴田ダムの洪水調節容量を増やす鶴田ダム再開発事業が平成19年度に始まりました。低い貯水位でも放流できるよう新たに放流管を増設するなどの工事計画は、稼働中のダムの改造としては国内最大規模のものです。

■ 事業の概要

鶴田ダム再開発事業（H18年12月新規採択）

- ・発電容量を活用した洪水調節容量の増量
- ・洪水吐の新設による洪水調節容量の増量

事業費：約711億円

工期：平成19年度～平成29年度

■ 事業の目的

事業用地取得 地元の皆様の協力により 約68万㎡もの事業用地を取得

総延長約62kmにも及ぶ大規模な事業であるため、必要な事業用地も広大な面積となりました。用地のご提供については、十分ご理解をいただけるよう繰り返し説明会を開催。地域の洪水に対する安全度を高めるために、長年住み慣れた土地をご提供いただくなど、多くの方々のご協力が事業推進の大きな力となりました。



司野地区地権者説明会



楠元地区地権者説明会



五社下地区地権者説明会

文化財への配慮 貴重な文化財を守りながら進められた事業

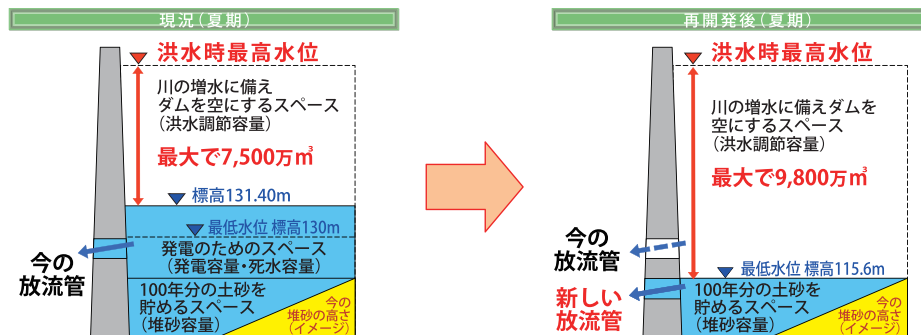
川内川流域には下ノ原B古墳をはじめ小鹿倉城跡、虎居城跡など貴重な文化遺産も多く、事業対象箇所37箇所のうち、文化財調査が必要となったのは16箇所。激特事業の限られた事業期間の中で、県の文化財課等や教育庁と調整しながら、綿密な埋蔵文化財調査を行いました。

■ 下ノ原B古墳



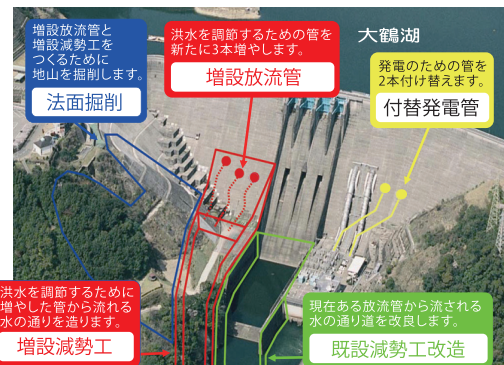
事業マネジメント 関係機関間の調整、建設発生土の処理など 多岐にわたる課題を克服

事業地区が広範囲に及ぶため県や市町との役割分担や既存事業と激特事業の調整等事業計画の段階からさまざまな課題が浮上。関係機関と随時事業調整会議を開くなど、緊密なコミュニケーションにより乗り切りました。また施工段階では膨大な建設発生土の処理など多くの課題に的確に対応していきました。



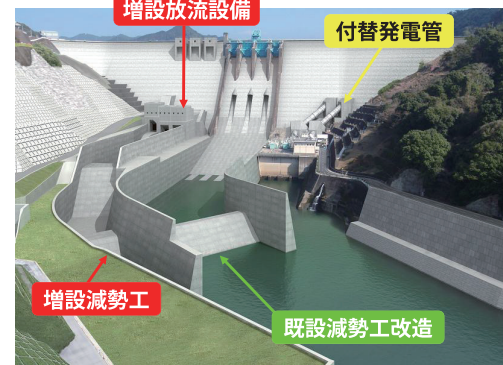
夏場の洪水調節容量を現行の最大7,500万㎡から最大9,800万㎡（約1.3倍）に増量させます。これにより、平成18年7月洪水と同規模の洪水に対しても、鶴田ダム下流域の洪水流量を低減させ、流域の更なる治水安全度向上を図ります。

計画イメージ



この工事は、今のダムの機能を維持しながら、放流管を増やして治水機能（洪水を調節して下流の川の水量を減らす機能）を向上させる工事です。

イメージパース



※現時点の完成イメージであり、実際とは異なる場合があります。